



「ポール・ラインシュ文書」の概要（一）

奈良岡，聰智
安田，貴雅

(Citation)

六甲台論集．法学政治学篇, 67(1・2):183-189

(Issue Date)

2021-03-20

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81012629>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81012629>



「ポール・ラインシュ文書」の概要（一）

奈良岡 聡 智
安 田 貴 雅

はじめに

本稿は、米国ウィスコンシン歴史協会（Wisconsin Historical Society）所蔵「ポール・ラインシュ文書（Paul S. Reinsch Papers）」の概要を紹介するものである。

ポール・ラインシュは、今日その業績が振り返られることは多いとは言えないが、20世紀初頭の米国では著名な国際法・政治学者であった⁽¹⁾。彼は1869年にウィスコンシン州ミルウォーキーで生まれ、ウィスコンシン大学マディソン校で学んだ。大学院では「フロンティア」理論で名高いフレデリック・ターナー（Frederic Turner）のもとで学び、学位を得た。学位論文の題目は「初期アメリカ植民地におけるイギリス・コモンロー（The Common Law in the Early American Colonies）」で、アメリカ植民地の形成過程において、植民地の現状に合わせてイギリスの法制度が変化しながら受容されたことを明らかにするものであった。学位を得たラインシュはそのままウィスコンシン大学に留まり教職に就き、1901年に早くも教授に昇進した。

ラインシュの初期の業績は植民政策に関するものが中心で、その後国際



ウィスコンシン歴史協会

(1) ラインシュの生涯については、彼の伝記的研究である Noel H. Pugach, *Paul S. Reinsch: Open Door Diplomat in Action*, Millwood, New York: KTO Press, 1979 を参照。経歴の概要については、米国ウィスコンシン歴史協会ホームページの「ポール・ラインシュ文書」の項を参照。<http://digital.library.wisc.edu/cgi/f/findaid/findaid-idx?c=wiarchives;cc=wiarchives;view=text;rgn=main;did-no=uw-whs-wis000vo>（2020年12月4日最終アクセス）

行政制度に関する研究でも成果を挙げたが⁽²⁾、彼は早くから東アジアにも関心を向けていた。彼が1900年に出版した『19世紀末の世界政治 (World Politics at the End of the Nineteenth Century)』は、19世紀を「民族主義」、20世紀を「民族的帝国主義」の時代であると規定して、国際政治の長期的趨勢を説いたスケールの大きな著作であった。副題が「東洋情勢の影響を受けて (As influenced by the oriental situation)」とされているように、同書はアジアの分析にも力を入れており、全5編のうち第2編、第3編は中国情勢に、第5編は東洋におけるアメリカ合衆国の地位に分析が割かれていた。同書は、高田早苗の翻訳により、『帝国主義論』と題されて日本でも出版された⁽³⁾。(Intellectual and Political Currents in the Far East)

ラインシュは1911年に『極東の知的・政治的潮流』と題した単著を刊行し⁽⁴⁾、この頃には米国における極東問題の権威の一人と見なされるようになっていた。彼の言論活動や知識には、1913年に米国大統領に就任したウッドロウ・ウィルソン (Woodrow Wilson) も注目しており、ラインシュは同年に駐華公使に任命された⁽⁵⁾。以後彼は、1919年まで北京に駐在してウィルソン外交の一端を担い、親中政策の旗振り役となった。中国ナショナリズムに共鳴していた彼は、公使退任後も中国に留まって北京政府の最高顧問を務め、1923年に同国で死去している。

「ポール・ラインシュ文書」は、ラインシュの以上の経歴を全てカバーする文書群であるが、文書の大半は、彼が駐華公使および北京政府の最高顧問として中国に在勤していた時期に関わるものである。米国の歴史家ノエル・プガーチ (Noel H. Pugach) は、この文書をもとにラインシュの伝記的研究『ポール・S・ラインシュ：行動する「門戸開放」の外交官 (Paul S. Reinsch: Open Door Diplomat in Action)』を出版したが⁽⁶⁾、管見の限り、同書以外に同文書を活用した研究は見当たらず、日本でもラインシュの中国での活動に焦点を当てた研究は存在しない。しかし同文書には、第一次世界大戦前後の中国および米中関係に関する極めて貴重な一次史料が数多く含まれており、同文書を詳しく検討することで、当該期の東アジア国際関係史をより立体的に描くことが可能であるように思われる。著者のうち奈良岡は2016年11月8～10日に同文書の調査を初めて行ない、その資料的価値を確認した。2019年

(2) ラインシュの国際法学者としての業績に関しては、篠原初枝「ポール・ラインシュとトーマス・ベイティ——一九一一年における接点——」(『外交時報』308号、1994年5月)を参照。

(3) ポール・ラインシュ著、高田早苗抄訳『帝国主義論』(東京専門学校出版部、1901年)。この他に、1905年刊行の著書も、ポール・ラインシュ著、松岡正男・田宮弘太郎訳『帝国主義論』(同文館、1910年)として出版されている。

(4) Paul S. Reinsch, *Intellectual and Political Currents in the Far East*, Boston: Houghton Mifflin, 1911.

(5) 駐華公使任命の経緯については、Noel H. Pugach, *op. cit.*, pp.54-60を参照。

(6) Noel H. Pugach, *op. cit.*.

8月19～20日及び同年10月15～19日には、安田が2回にわたって改めて同文書の調査・撮影を行ない、現在両名で同文書の翻刻・分析を続けている。本稿では、以上の調査に基づいて、同文書の概要、アーカイブの利用方法について紹介すると共に、同文書所収の主な資料を翻刻掲載する。

第一章 「ポール・ラインシュ文書」の内容

（一）目録の紹介

「ポール・ラインシュ文書」の目録は、米国ウイスコンシン歴史協会のホームページで公開されており、概要を知ることができる。以下では、ホームページの情報を適宜整理・補足しながら、目録の内容を紹介する（詳細は本稿末尾の【別表】をご参照いただきたい。註1掲載のホームページ掲載の目録を翻訳したうえで、調査に基づく情報を適宜加えている）。

同文書は主に文書資料全24箱で構成され、内容・資料形態から以下の7つの部分に分けられている。

- ① 書簡【全9箱】※うち1箱は一部②と重複
- ② 米国の北京公使館関係の文書【全2箱】※いずれも一部①③と重複
- ③ ラインシュが中国で作成・収集した文書【全8箱】※うち2箱は一部②④と重複
- ④ ラインシュの著作【全5箱】※うち1箱は一部⑤と重複
- ⑤ スクラップブック【全2箱】※うち1箱は一部④と重複
- ⑥ ホーキンス夫妻関係の資料【全1箱】
- ⑦ 追加資料【全1箱】

①（箱1～9）はラインシュのもとに送られた様々な書簡（来簡）および書類（覚書など）で、1892年から1911年までのものが時系列順に全9箱に整理されている（各箱の中はさらにいくつかのフォルダに分けられており、各フォルダに時系列順に書簡が収められている）。このうち約7箱分が駐華公使時代のもの、約1箱分が北京政府顧問時代のものであり、中国関係の書簡が充実している。書簡の送り主は、政治家、外交官、実業家など様々である。例えば第2箱（1911～1914年）を例にとると、米国の国務長官ウィリアム・ブライアン（William Jennings Bryan）、米国の銀行家ウィラード・ストレイト（Willard Straight）、英国の駐華公使ジョン・ジョーダン（John Jordan）、中国の政治家蔡廷幹、日本の駐華公使山座円次郎といった具合で、ラインシュの北京での広汎な活動内容が分かる内容となっている。資料の種類は、書簡（タイプ打ち、手書き）、公文書（外交文書、覚書）、電報など様々である。公的なものと私的なものが混在しているが、ラインシュの北京での活動は公私の別が必ずしも明

確ではなかったため、あえて両者は区別されず、同一の箱に収められている。

②（箱 9、10）は、米国の北京公使館関係の文書で、ラインシュが赴任する以前の時期のものが収められている。これに対して③（箱 10～13、17～20）は、中国在勤時代にラインシュ自身が作成・収集した様々な文書（一部書簡も含む）である。時期としてはラインシュ赴任以前のものも含まれ、資料の種類は、中国の新聞の翻訳、中国の様々な機関から送られた文書の翻訳、中国要人との会見記録、覚書など様々である。内容も対華二十一カ条要求、山東問題、新四国借款団、ワシントン会議、中国の内政など豊富で、質量共に①と③が本文書の中核だと言える。なお箱 17～20 には、ラインシュの中国在勤時代の英語または中国語の新聞の雑多な切り抜きが収められている。

④（箱 14～17、23）は、ラインシュの論文抜刷、草稿類や講義関係の資料である。このうち第 15 箱には、ラインシュの駐華公使時代の回顧録『中国における米国外交官（An American Diplomat in China）』⁽⁷⁾ 草稿が収められている。出版されているものと一見構成がかなり異なるため、著者 2 名で草稿との照合作業を行なったが、検討の結果、順番が異なっているだけで内容はほとんど同一であった。なお第 17 箱にはラインシュ夫人の 1906 年の日記、第 23 箱にはラインシュの 1917 年の日記（ただしほとんど内容はない）も収められている。

⑤（箱 22、23）はスクラップブックで、1891～22 年の雑多ものである。⑥（箱 21）は、北京公使館でラインシュの助手をしていたホーキンス夫妻（夫⁽⁸⁾はラインシュの教え子、妻はラインシュ夫人の妹）関係の資料で、若干の文書資料と夫妻へのインタビュー記録（カセットテープ）が収められている。⑦（箱 24）は 1970 年にラインシュの遺族から寄贈された追加資料で、書簡、書類、切り抜きなど雑多な資料が時系列順に収められている。

（二）閲覧状況の紹介

①閲覧室の概要

ウィスコンシン歴史協会はウィスコンシン大学マディソン校に取り囲まれる形で立地している。4階建ての建物でアーカイブは4階にある。

アーカイブ受付でパスポートの提示をした後に利用者登録がされる。利用者情報は個人のメールアドレス宛に届く。ウィスコンシン大学関係者ではない者は 30 日間の期間限定の ID が交付され、その ID に基づきインターネットを通じて史料閲覧申請をする。一度に申請できる箱の数は 8 箱まで。ネット上の申請なので、数日間の連続した調査の場合、宿泊先から

(7) Paul S. Reinsch, *An American Diplomat in China*, Garden City, N.Y.: Doubleday, Page & co., 1922.

(8) Horatio B. Hawkins (1884 年～1972 年) 米国人官僚。1906～1908 年に中国の清国海關総稅務局、1912～1940 年に中国各地の稅關の運営に携わる。そして 1945～1946 年にインドと中国の米国對外經濟局に勤務。

申請や取り消しが可能。（手荷物や筆記具の持込禁止などは他のアーカイブと同様。）

アーカイブ利用者はそれほど多くない（常時3～7名ほど）。2019年8月訪問時は小学生を対象に、同年10月訪問時は高校生を対象にアーキビストが「ウィスコンシン州の歴史」と題した説明会を閲覧室で行っていた。その会（各30分ほど）の間は非常に騒がしかったが、平時はアーキビスト（合計で8名ほど。交代制で常時2～3名在室。）の談笑しか聞こえない。

②文書の現況

史料の保管状況は米国の他のアーカイブと比べても悪くない。ただ文書のフォルダの整理状況が煩雑である。フォルダ名に「n.d. = no date」が多いことと、フォルダの中身がバラバラであるので、時系列順に並んでいないことが目についた。これは過去の閲覧者たちが撮影などを行っている最中に順番を入れ替えてしまい、こうした状況になっているのだと予想する。

利用の際、特に注意を要するのは、新聞記事の切り抜きが収められている箱17～20である。これらの切り抜きは整理されていないが、全てラインシュが駐華公使だった時代のものである。主に中国の英字新聞からのものであり、現在ではアクセスすることが不可能な貴重なものが多いと思われるが、保存状況が極めて悪く、箱の中に新聞の切れ端が相当程度溜まっている。また、新聞の折り目が割れており、どの記事とどの記事が繋がっていたのかを



新聞の切り抜きの保存状況



アーカイブ内の状況

探すことにも相当な時間を要する。新聞紙名が記載されていないものも少なくなく、全面的な活用は困難だと思われる。

【別表】

シリーズ：書簡	
BOX1	1892年1月30日～1910年
BOX2	1911年～1914年11月30日
BOX3	1914年12月3日～1916年11月28日
BOX4	1916年12月1日～1918年2月20日
BOX5	1918年2月21日～12月5日
BOX6	1918年の日付のないもの。1919年1月～5月14日。
BOX7	1919年5月16日～12月31日
BOX8	1913～1919年の間の日付のないもの。1920～1921年12月31日。
BOX9 Folder1・2	1921年の日付のないもの～1924年5月13日。日付のないもの。
シリーズ：北京のアメリカ公使館からのファイル	
BOX9 Folder3・4	1835年～1908年11月28日
BOX10 Folder1～3	1909年3月13日～1913年6月4日。日付のないもの。
シリーズ：ラインシュの中国関係の文書（主に公使時代に収集されたファイル）	
BOX10 Folder4	1878年2月20日～1902年5月9日
BOX11	1902年8月7日～1912年8月4日
BOX12	1912年8月5日～1921年〔?〕。日付のないもの。
BOX13	1919年8月31日～1924年5月20日。日付のないもの。 （公使退任後の中国関係のファイル）
BOX17～20	未分類の新聞切り抜き
シリーズ：著作物	
BOX14 Folder1・2・4	論説と演説（タイプ原稿と手書き原稿） 1902年～1922年。日付のないもの。
BOX14 Folder3	本の原稿（Reinschによる?）[日付なし] “ <i>The Culture of Rubber and Sugercane on Plantation La Crosse</i> ”
BOX15 Folder1・2	本の原稿 “ <i>An American Diplomat in China</i> ”
BOX15 Folder3・4	論説と演説（印刷） 1900年。1906年～1913年7月。1921年。日付のないもの。
BOX16 Folder1・2・4	講義と演習；1907年10月～1913年。5月13日。日付のないもの。
BOX16 Folder3	ノートと研究資料；1899年～1921年11月19日。日付のないもの。
BOX16 Folder5	証明書；1869年3月2日。1906年5月18日～1923年3月5日。
BOX17 Folder1	未分類の新聞切り抜き
BOX17 Folder2・3	学生の論文；1904年2月14日～1913年3月11日。日付のないもの。

BOX17 Folder3	ラインシュ夫人による1906年の日記
BOX23 Volume1	ラインシュによる日記：1917年1月2日～12月31日
シリーズ：スクラップブック	
BOX22 Volume2	1900年9月～1911年3月11日
BOX22 Volume3	1903年7月12日～1915年9月10日
BOX22 Volume4	1912年～1919年11月16日
BOX22 Volume5	1915年1月2日～1918年2月
BOX23 Volume6	1919年11月17日～1920年9月27日
BOX23 Volume7	1920年10月1日～1922年3月29日
BOX23 Volume8	1891年6月5日～1907年6月9日
シリーズ：ホーキンス関係の追加文書	
BOX21	ホーキンス夫人の日記からの抜粋（1913年） →ここには、ラインシュ博士が駐華公使に任命されたことへの言及とホーキンス氏が1913年に勤務していた三都島（三都澳）に関して1963年に書いたコメントが含まれている。
BOX21	ホレイシオ・B・ホーキンスによるアラン・ケントの論説へのコメント →1951年冬の『ウイスコンシン歴史雑誌』掲載のアラン・Eケントによる論説「象牙の塔から降りる：ポール・サミュエル・ラインシュ駐華公使」に関連するコメント
BOX21	テープ録音No.5～14を行うための概要、質問とノート →使用された順序でグループ化され、参照しているラインシュの資料へ言及が鉛筆で書かれている。
TAPE 310A	テープ録音
No.1-2	協会スタッフのウィリアム・シェレック氏によるホーキンス夫妻へのインタビュー →主に回想と背景情報を扱っている。
No. 3-4	英国史専攻のウイスコンシン大学名誉教授ポール・ナブルンド博士によるホーキンス夫妻へのインタビュー →外国による中国の税関の管理、ラインシュの日中間の条約への関心、日本の台湾支配、「門戸開放政策」に対するラインシュの態度、および中国に影響を与えた20世紀初頭のその他国際問題。
No.5-14	ホーキンス夫妻自身が提示し、彼らが答えた質問 →このような主題別のアプローチにより、ホーキンス夫妻は記憶をたどり、解釈しながら、ポールS.ラインシュの人生と仕事について話し合うことができた。
No.15-16	歴史学専攻のウイスコンシン大学教授ウィリアム・A・ウィリアムズ博士によるホーキンス夫妻へのインタビュー →ラインシュが中国でしようとしたこと、彼の東洋への態度、第一次世界大戦中の世界における中国の役割に対する影響についてのホーキンス氏による評価。また、社会のあらゆるレベルで、中国人が米国一般についてどのように感じ、公使としてのラインシュ氏にどう接したかについても話し合われた。
BOX24	シリーズ：ラインシュ文書追加（1903～1922年）